

実践ニーズに対応した学校法規の運用

6月18日（土）に「現代的学校教育の課題解決シリーズ2016」の学び合う仲間による教員研修リレー講座の第4回が行われました。今回は、東京学芸大学教授の佐々木幸寿（教育行政学）先生による、「実践ニーズに対応した学校法規の運用—判例を使って—」と題して、危機管理事例として、体罰、過労死、セクハラ、年次有給休暇、休日授業（夏休み代休）等に関して、場面分析演習方式による学び合いが展開されました。現場の実態を踏まえ分かりやすく判例内容を説明しながら、難しくも楽しい一時を過ごすことができました。



<参加者の感想から>

- 必要と感じながらも、なかなか学ぶ機会がなかった法規について分かりやすく話していただき、興味深く学びをすすめることができました。もっと時間があればと感じました。
- お話を聞いて、普段曖昧だった部分のはっきりし、とても勉強になりました。
- 学生の私たちにも分かりやすく丁寧に教えていただき、大変勉強になりました。教員採用の勉強に役立てたいと思いました。色々な事例は難しい問題が多く、法規が分かることでそこから分かることが多々あるので、今後も勉強を続けていきたいと思いました。
- 物事の良いか悪いの判断は法律を学ぶと共に、世の中の「不適切」な基準を理解した判断、行動をしていくべきだと学びました。今後管理職の判断は大変であると感じました。
- 昨年に引き続き佐々木先生のお話が何え、現場人として大変ありがたかったです。法令についての基本から学校現場での運用まで、中身の濃い90分でした。
- 毎回非常に学ぶ点が多く有り難いです。法令的な知識も教員は必要であり、それが自分たちを守る貴重な手立てであると強く感じました。
- 法規の基本から具体的事例を用いた内容は期待通りでしたので、非常に満足しています。